

安藤 美羽 編集長  
中川 晴賀 編集長  
鈴木 舞衣  
吉武 美智  
石井 優希  
濱嶋 弓恵  
小野 詩織  
佐藤 真珠  
前島 由依  
宇治 萌花  
高橋 るん

協力 葉袋研究室

二〇二三年 三月発行

この冊は、日本女子大学家政学部住居学科の学生の視点から、雑司ヶ谷の魅力を紹介するために、雑司ヶ谷未来遺産推進協議会の活動の一環として作成したものです。



# ぞうしガヤガヤたんけん

## まちをめぐると

## 文化をたどると

- 神社・寺院
- 緑・公園
- 雑司ヶ谷の歴史を辿る道





# 藪蕎麦の ルーツを探る

「更科」「砂場」とともに江戸前三大蕎麦として知られる「藪蕎麦」ですが、そのルーツは雑司ヶ谷にあると言われていています。

鬼子母神の参詣客が増えるにつれ、茶屋や料理屋ができ、門前は町場と化しました。歌川広重「江戸高名会亭尽雑司ヶ谷之図」に描かれる茗荷屋もその一つで、柳沢信鴻の六義園での隠居生活を記した『宴遊日記』には茗荷屋で蕎麦を食べたことが記されています。



『江戸名所百人一首』

また、『江戸惣鹿子名所大全』に「雑司ヶ谷蕎麦切、ぎょうしがや門前にあり。中にも社地の東之方茶屋町をはなれて、藪の中に一軒あるを名物とす」との記述があります。このことから、鬼子母神の門前町家の他、南池袋四丁目・雑司ヶ谷一丁目周辺の藪の中にも一軒の蕎麦屋があったようです。

俳人・彫金家の戸張喜惣次はその藪の中にある「爺が蕎麦」の店主でした。俳人・堤亭が選定した句集『種おろし』のはやり物目録の中に蕎麦切の名店が記されています。喜惣次の蕎麦屋は「雑司ヶ谷藪の中」としてその中に名を連ねています。

喜惣次の友人であった狂言師・大田南畝は、雑司ヶ谷の様子を記した作品を数多く残しています。この詠は南畝が喜惣次に寄せたものです。

見渡せば麦の青葉に藪のそば  
きつね狸もここへ喜惣次

喜惣次の蕎麦屋は見渡す限りの青々とした畑の中にあつたのでしょう。  
鬼子母神詣に来た参拝客は、行きに「爺が蕎麦」で注文し、帰りに再び立ち寄り蕎麦を味わつたそうです。「藪」という名で親しまれた蕎麦が雑司ヶ谷の名物だつたことから、「藪蕎麦」を名乗る店が江戸各地に現れ、江戸前三大蕎麦となりました。

## 住居学科生の視点で見る 雑司ヶ谷お勧めスポット

雑司が谷未来遺産推進協議会のウェブサイトに、普段建築やまちづくりを勉強する日本女子大学家政学部住居学科の学生の目線で見た、雑司が谷の魅力を紹介するサイトがあります。今回は、これまでの記事から、地域住民の方々がつながらの深いスポットをご紹介いたします。普段何気なく利用したり、歩いている場所のルーツを調べたいと思われぬ発見があるかもしれません。



### 花のはし

JR線の目白～池袋駅間の線路にかかる「花のはし」。橋の上から数分の間に何本も行き交う電車を眺めていると、思わず時間が経つのを忘れてしまいます。目白駅は全国初の橋上駅舎として知られていますが、「花のはし」から駅を眺めるとその特色ある構造がよりはっきりと分かります。遠くには新宿の高層ビル群まで見渡せ、電車好きや建築好きの方に特におすすめしたい場所です。「花のはし」という名前は地元の方々によってつけられ、将来線路敷内の土手に花々が咲き誇り、花の名所として地域の方々に親しまれ、また愛着を持たれることを願ったものです。「花の上」には、色とりどりの草花が風に吹かれて咲き乱れている様子を言い表した「花野」という意味も込められています。MY



### 南池袋第二公園

別名らくだ公園と呼ばれ、昔、雑司が谷異人館があつたところに来た公園です。可愛らしいらくだの遊具や木で出来た遊具は子ども連れの親子に親しまれており、歴史を感じる立派なケヤキの木の下で、ゆっくり過ごすことができます。また、見渡しも良いため、公園から都電を眺めることもおすすめです。実は、東京きくらトラム(都電荒川線)を見やすくなったのは、地元の特定非営利活動法人雑司が谷ひろばくらぶと、豊島区の担当者の方々との相談の成果なのです。街歩きの中などに立ち寄りてみてはいかがでしょうか。C.H

### 雑司が谷三角ひろば

『休憩しよう!つむきねかさんによる愛らしい壁画が目を引く休憩スペース。ポイ捨てが多かった自販機の周りを“NPO法人雑司が谷ひろばくらぶ”の方々が所有者の方と相談の上で清掃し、19年1月に完成。まさに地域で作った憩いの場です。地面をよく見るとフクロウの落し物、と思いきや出張った杭につまづかないようにするためのユニークなデザイン。雑司が谷散策の合間に、フクロウと一緒に一息つきましょう。ただし、NO SMOKING! MW



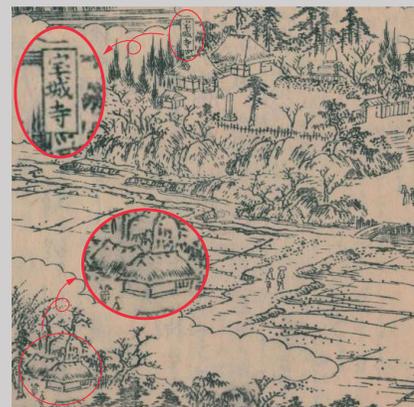
### 緑のこみちの会の休憩所

みなさま、緑のこみちの会の活動をご存知でしょうか。こみちの会の方々は、雑司ヶ谷霊園の生垣の管理保護や周辺の清掃、花の植え付けを中心に、まちの緑を守るために日々活動されています。小学校との共同プロジェクトなども行われています。こちらの写真のベンチは、緑のこみちの会が管理している花壇のそばにあります。最近はや暖かい日も多く続き、春が訪れつつあります。花壇も賑やかになる季節ですね。散歩で近くを通った際にはベンチに座り、陽気と彩り豊かな花々を楽しんでみてはいかがでしょうか。

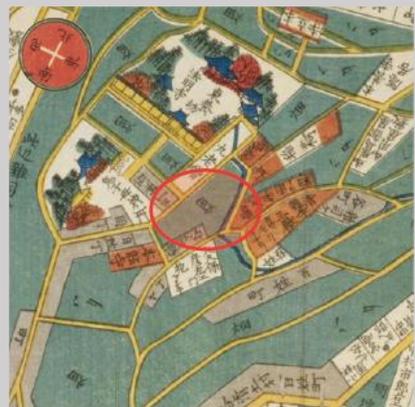


詳しくはこちら  
(※画面下の方にあります)  
<https://zoushigaya-mirai.tokyo/spot/>

(文責 鈴木舞衣)



『江戸名所図会』宝城寺が描かれている。よく見ると木々の中に一軒の町屋が。これが「藪蕎麦」のルーツなのかもしれない。



『江戸切絵図 音羽絵図』鬼子母神の東には広大な畑がある。この中に蕎麦屋があり、参拝のついでに蕎麦を味わつたのだろうか。

# 雑司が谷公園の 災害への備え

備蓄倉庫  
区と地元町会の  
備蓄倉庫です



プロパンガス

都市ガスよりも  
災害に強いので  
炊き出し用とし  
て使われます

貯水槽・  
防火水槽

上は一六〇十の  
雨水貯水槽、  
〇〇十の消防水  
槽の二層の水槽  
が整備されてい  
ます。その他敷  
地内にも防火  
水槽があります。

非常用トイレ  
貯水槽の水によつて  
非常時の使用が可能です。  
照明は太陽光発電から  
得ています。



壁面照明



災害時の照明や  
雨水のくみ上げ  
だけはなく、常  
時は丘の上テラ  
スの壁面の照明  
や公園内のソー  
ラー照明として  
使われています。

雑司が谷公園は丘の上テラスや  
敷地内に充実した防災設備が整  
備されています。今回はその防災  
設備についてご紹介します。  
(文責 安藤美羽)



深井戸

20mの井戸、生  
活用水として  
も利用できま  
す。



かまどベンチ

ベンチの中にかまど  
が設置されています。  
新聞紙があればご飯  
を炊くことができます。  
公園内に10カ所  
あります。



## 防災訓練の様子

6月26日(日)に開催された防災訓  
練において、子どもの外遊びによる音が  
近隣住民から騒音と捉えられている現  
状を踏まえ、屋外での音の大きさと種  
類を明らかにするため、騒音計を用い  
た音の調査を行いました。

当日は、消防士と消防団員の指導の下  
参加者が消火器の使い方を学び、初期消  
化訓練、かまどベンチの使い方体験、消  
防車の展示が行われました。防災訓練  
終了間際には、公園内に設置された防  
災無線の試用が行われました。

公園南側、丘の上テラス横、北側敷地  
境界線上の3箇所測定した結果、3  
箇所全てで人の声、車の走行音、風が大  
きな音として共通していました。子ども  
声の最大値は81.5dB、車の走行音の  
最大値は70.0dB、風の最大値は  
67.2dBでした。60dBくらいから騒が  
しいと感じるとされているため、大きな  
音であるといえます。防災無線の音につ  
いては、公園南側と西側の2箇所測定  
しました。その結果、南側の方が西側  
よりも音が大きく測定され、場所によ  
り聞こえ方が異なることが確認できま  
した。



▲初期消火訓練の様子

防災訓練での測定より、音の大き  
さは風など気候や周囲の状況で簡  
単に変化し、音への苦情は大きさの  
他に音の種類や質が関係すること  
がわかりました。また、同じ音の大  
きさであっても場所により聞こえ方  
が異なることが確認でき、音源の向  
きや風向きが影響することが考え  
られました。

(文責 吉武美智)

## 防災文化を育む 雑司ヶ谷公園

雑司が谷公園は防災設備だけでなく  
木造密集地の中の公園ということ自体に  
火災延焼機能の防止や避難場所として  
機能を果たします。

雑司ヶ谷公園は救援センターとしても  
利用されていた高田小学校の跡地であ  
ることから防災公園として計画されま  
した。開園までにワークショップやアン  
ケート調査を重ね、住民の方々と共につ  
くられた公園です。完成後の検討会は  
「運営協議会」として地元町の町会、商店  
会の代表者、大学、NPO法人ひろばく  
らぶ」が連携し、運営や維持管理のため  
に現在も活動を行っています。住民が主  
体的に行うことができるという点で大変  
意義のある取り組みです。

午前中にこの公園を訪れると老若男  
女問わず散歩されている様子が見受け  
られます。夕方近くになると元気な小学  
生たちがボール広場や遊具で遊んでいま  
す。週末には不定期でプレーパークなど  
のイベントが行われ、地域コミュニティの  
場として大きな役割を果たしています。  
また、公園から池袋の高層ビルがポツ  
ンとよく見えます。この景観は池袋とい  
う三大副都心にほど近くありながらも  
閑静な住宅でもある雑司が谷ならではの  
光景ではないでしょうか。

(文責 安藤美羽)

「教養」

特別講義

教養特別講義は、日本女子大学の伝統ある授業。百二十年前、創立者成瀬仁蔵が「実践倫理」という名称で始めた授業を引き継ぐ、一年生の必修授業。従来は軽井沢三泉寮で行われてきましたが、コロナ禍では、目白キャンパスで実施されました。葉袋クラスでは、三十名ほどの学生が、大学周辺の建物やまちの様子をグループで調べ発表しました。その中から雑司ヶ谷界隈を調べたグループの勉強成果を抜粋して紹介します。

自由学園明日館

自由学園明日館



明日館は重要文化財指定を受けたうえで活用する「動態保存」をしていくために①オリジナル復原②恒久性を高めるための工夫③活用のための改善という3つの大きなテーマのもとに修理を進めた。

【課題】自由学園の校舎は、雨漏りも目立ずバテルの弊気のな上ある一方、修繕費の指定を受ける「解決」重要文化財指定を受けた。今ではオリジナル復原のための資金を18000人の表参道生が生活学習、コンサートなどに活用する。建物には「動態保存」としては「その形を壊さず、その内容を最大限に活かす」

鬼子母神堂



鬼子母神堂は本殿の形式だけでなく拝殿にも通例の権現造と異なる箇所がある。鬼子母神堂は広く庶民に開放して来たため、吹放し外陣となっている。

【設計者の意図】鬼子母神堂は本殿の形式だけでなく、拝殿にも通例の権現造と異なる箇所がある。鬼子母神堂は広く庶民に開放して来たため、吹放し外陣となっている。

南池袋公園



【課題と解決策】区と地元住民の意見のずれ、「南池袋公園をよくする会」を作り、地域の人が運営できる仕組みを作る。リニューアル前は薄暗く治安が悪かった。以前のイメージを払拭し親子や若者が気軽に立ち寄れる賑わいに寄与するよう空間を作った。

山手線



目白駅の新設にあたっては、課題がひとつありました。新駅は、清土通りを運ばれてくる農産物を貨物列車に積み替えることが前提なので、(中略)：新宿駅の北側から築堤して高架線とし、目白に向かって少しずつ高度を上げていくという工事になった。

1年生 『雑司が谷の家』

～設計演習 家～



「丘の上 屋根の下」 前島 由依

丘の上に聳え立ち光や緑を全面に浴びるのびのびとした暮らしと、屋根の下で家族が見守り合いほっと落ち着ける暮らしの二面性を持つ。建物は2つの長方形を傾けた形にすることで各空間にいる家族の視線が自然と家の中心へ向く。屋根の構成は建物より大きな庇を基盤に、一部はシェル構造として家の壁より外側に位置する新たな外壁が地面まで降りてくる。庇の下はウッドデッキを設けて縁側のような自然と一体化する空間に、ダイニングを囲う長い庇とリビング横の一家の大黒柱の外壁は家族団欒の象徴となる。

2年生

『都市の中の住処』

「屋根とともに暮らす」 宇治 萌花

都市の中で、自分の生活行為、住人同士の繋がりが、近所の人との関わりを、いかにストレスなく自分の落ち着く場所に発展させるかを模索し「境界」に着目した。このプロジェクトでは屋根で境界を創ることを試みた。各棟には大きな屋根があり各部屋にも屋根がある。両方の屋根を使って視覚的に境界を生んだり、身体寸法に合わせた設計で動きを誘発させたりすることによって、パブリックとプライベートを超えた多義的な空間を提案した。



『街とくらす、21人のための家』

「人を誘う波」 高橋 るん

雑司が谷の鬼子母神堂のそば、ケヤキ並木の参道と鬼子母神通り商店街に挟まれた敷地に、計二十一人のための集合住宅を設計した。

交通至便の都心である立地を活かし、敷地両側の道から人の流れを取り込み交流を促す波のような役割を持つ建築にした。特徴ある形状と共に地域と繋がりが、開かれたランドマーク的な集合住宅となっている。



薬袋研究室では雑司ヶ谷で調査・研究を行なっています。2022年度の卒業論文をご紹介します！



## 雑司ヶ谷を対象にした卒論紹介

### In 雑司ヶ谷!

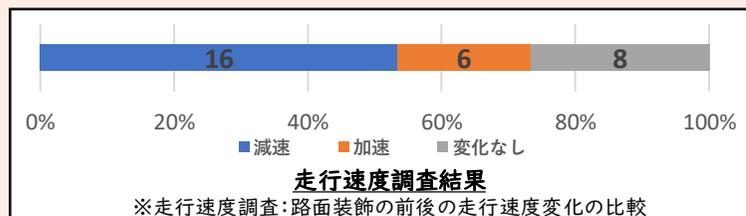
## 日本女子大学寮地区での走行実験

車の速度抑制を促し、道路を生活空間として機能させるため、路面装飾を使用することを検討しています。

本学寮地区で行われた実地実験では、対象地を運転者体験者に走行してもらい、アイトラッカーを用いて運転手の視行動を記録・分析することで、ドライバに与える影響を確認し、安全性の検証をしました。また、歩行実験、アンケート・ヒアリングを通して路面装飾の印象や評価、生活行為の変化などを調査し路面装飾の心的影響と行動変化との関係性を確認しました。

実験の結果では、路面装飾があると速度を落とす、周囲をよく確認するようになるなど、路面装飾がドライバの安全運転に良い影響を与えるものであることが確認できました。

今回は大学内の道路で実験を行ったため、今後は実際の生活道路上で同様の結果が得られるのか、歩行者の安全確認行動にはどのような影響を与えるのかといった視点から、快適な道路空間創出に向けた検討を続けていきます。



▲ヒアリングの様子



▶実験(ドライバ)の様子



□実験で設置した路面装飾

## 日本女子大学寮の家具 — 梅花寮・紫峰寮・精華寮・新泉寮 —

雑司が谷一丁目にある日本女子大学の寮には、昭和初期〜三〇年代頃の木製家具が数多く残されています。本棚・食器棚・机・花台(生けた花を飾っておく台)・オルガンなど、いずれも一点一点職人の手により製造され、現代にはない家具製造技術、当時の西洋家具の影響を感じられる和洋折衷なデザイン、古い木の味わいがあります。昨年の明桂寮調査に引き続き、今年は梅花寮・紫峰寮・精華寮・新泉寮の家具の調査と整理を行いました。調査の結果、梅花寮には四十一種類約一三五点、紫峰寮・精華寮・新泉寮(一棟三寮)には三十九種類八十六点の家具が現存しています。

日本女子大学寮の歴史は長く、開校当初の一九〇一年(明治三十四年)から存在しています。

本学の創立者である成瀬仁蔵氏は、寮での教育を重視し、生徒が生活を行う施設としての「寮」と、組織としての「寮」の二つの意味合いを込めました。現存する寮は全て鉄筋コンクリート造の建物となつていますが、かつては敷地内に、木造戸建て風の寮が多数存在し、今でも当時使用されていた家具が残っています。前述した家具調査を行った寮は現在使われておらず、家具類は放置されている現状にあります。現存する寮の建物以上に古く、歴史的価値の高い家具も多く、いずれも長きに亘って寮生の間で受け継がれてきたものばかりです。これらは雑司が谷の大切な遺産として、繋いでいく必要があると考えています。



▲昭和初期頃の花台(精華寮)  
花瓶などを飾るもの。梅花寮には花台は存在せず、寮内を飾りつける文化など、寮によって異なる特色が見える。

▲昭和初期頃のレコードケース(紫峰寮)  
今では珍しいレコードケース。中には他寮から引き継がれた年代物のレコードも残されている。

▲大正時代の本棚(梅花寮)  
草木を模したガラスが使用されている。現在は製造されていないもの。イギリス家具の影響を強く受けたデザイン。

(文責 石井優希)

(文責 中川晴賀・浜嶋弓恵)